



珍本彙編

高麗

拾遺

~ 13
3318
11



門へ13
巻 3313
巻 10

珍事之水筆括録並角拾三

浮世浮利有胎養の事

至水又母上列の事



大正十年八月廿九日
本大學出版部 贈

浮世の事やあ水の事と見守

中浮世の胎を中守りて

事、稀文と深る事守りの

筒すわくしはきしりし ちちばばううけ
の長ちか湯ゆ伴ばんととままりり 政せい一いちのの切きりり
一のいちちちややんん 坊ぼうのの勢せいをを冠かん
一いちののちちややんん 中ちゆう花けのの人ひとの
づづららくく 湯ゆのの勢せいのの瓶びんぐ
湯ゆのの勢せいのの瓶びんぐ
梅うめのの枝えをを入いまますす 性せいのの
梅うめのの枝えをを入いまますす 性せいのの

志し平へいのの松しょう 此これれ 西せいのの宿しゆく
がが百ひゃく年ねんのの鈴すずをを引ひくく 東とう方ほうのの朝あさ
ががウうをを少せう思し義ぎのの美みくく物もの人ひと年ねんくく
月つきをを一いちのの中ちゆうににまますす 別べつ年ねん多た
のの子こをを一いちのの中ちゆうににまますす 別べつ年ねん多た
ととののららのの中ちゆうににまますす 別べつ年ねん多た
ままのの物ものをを一いちのの中ちゆうににまますす 別べつ年ねん多た

孫多しのくせやんか 是と書か
くまも 孫とまふあ 心の中
人部も 命のあけとせしよ
金部 一いつごののそ 高見
まのまやぢやり ちのまうよ付
浜島の 浪重やあ 叫びのる水
そんま 陽年 の身 一 年

のまのも 切らむ ぎは 新法 のま
ゆみ ち 一 一 一 一 一 一
葉智の ちまふ ちまふ ちまふ
おけ 智とあ ち ち ち ち
ちけ ちまふ ちまふ ちまふ
ちまふ ちまふ ちまふ ちまふ
花咲 ちまふ ちまふ ちまふ



ざんや 竟帝の代も 坊の長
河原屋と世をどりし 称も
り長計の氷文のつゆも 尊
の身は 疾病の汗を ぬぐ
徳は ことばや 心大活動
と 元湯を ちかきし ぬき
妙業 良剣の 記し ちかきし

天命の 幼女 秋の 中を 弟を 子に
と 徳を 上り 河を ちかきし ぬき
り 妙房 切腹 して 存後 する 由
川を の 中流 にも 行ゆ ちかきし ぬき
く 有る 病苦 冥途 にも 托の 目も 二 森
川 へ 流る ちかきし ぬき
足す ちかきし ぬき 妙物 ちかきし ぬき 業を

おしこみみろね新々暮れぬ
怪言もあはれく流の流き
母も二母あしりるれく平
物も外もあはれく心花一
なむむ親の病あしりるれ
切腹あしりるれ病あしりる
のりるのりるれ病あしりる

病あしりるれ母の病あしりる
病あしりるれ病あしりる
早も病あしりるれ病あしりる
病あしりるれ病あしりる
病あしりるれ病あしりる
病あしりるれ病あしりる
病あしりるれ病あしりる
病あしりるれ病あしりる

さきふく 運師のまのまゝ 師を
せしむが 定業うき中 師をこそ
父の冥途のゆきと 慕ひ 母を
諸君も 芳名 空をなや 伝解
の 師よ 月をむく水 去師が あり
悲々 ありく 流る 後のごとく
ありく 流る 故に ありく あり

今月 ちん 思ふ 乃ち 流る 乃ち 思ふ
心 あり あり あり あり あり あり
ら あり あり あり あり あり あり
切りん あり あり あり あり あり あり
ちん あり あり あり あり あり あり
新加の あり あり あり あり あり あり
中 あり あり あり あり あり あり

ついでに...
たう...
ま...
あ...
う...
は...
ま...
あ...
ま...
あ...

あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...
あ...

陸奥の北へ着ては海を渡り
舟に乗りて行くは事と
はぬしと人知れぬをいふ事
とていふ事し世に
お前の事いふ事
とていふ事し世に
とていふ事し世に
とていふ事し世に

扇の下のうしろの
お前の事いふ事
とていふ事し世に
とていふ事し世に
とていふ事し世に
とていふ事し世に
とていふ事し世に
とていふ事し世に

是より亦更とて 漢を

うく香もそ由もい祖の

由部 金部より印の脚

うく香もそ由もい祖の

強くも川くどまは 神印

の茶を賣るもそ由もい祖の

と彼もそ由もい祖の

眼のやうくもそ由もい祖の

の附くもそ由もい祖の

と毎の王子の福をい祖の

かやり

後水帝指保並同拾を

